

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298900125		
法人名	社会福祉法人 阿育会		
事業所名	グループホーム あんじん		
所在地	千葉県香取市佐原イ1679-1		
自己評価作成日	令和3年3月20日	評価結果市町村受理日	令和3年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku./12/index.php">http://www.kaigokensaku./12/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7	TEL	0479-63-5036
訪問調査日	令和3年5月7日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「愛されていない命は一つもない・尊ばれない命は一つもない」この理念を運営やケアサービスを提供するうえでの拠り所としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デイサービスとの交流を図り、毎月の生活を充実させている。</li> <li>・日中の過ごし方(入居者の思いを取り入れ、工夫している。)</li> <li>・買い物、散歩、外出</li> <li>・医療連携の充実を図り、入居者のニーズに応えた生活支援を提供しています。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>(パン屋、酒店、ふとん店)などがある住宅街で1ユニット6名の家庭的な雰囲気施設です。一日がゆったりと流れ、朝夕の登下校時小学生の見守り時の挨拶や同敷地内のデイサービスの利用者の友人との交流が来ています。昨年からのコロナ渦で、長く、外出行事や家族の来所ができなく、移動スーパーの導入や施設関係者、スタッフや利用者の感染予防の配慮や普段の生活を楽しくできるような大変な中創意工夫がされています。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	愛されていない命は一つもない・尊ばれない命は一つもない。この理念を共有し、実践につなげている。	1ユニット6名のグループホームで、同じ敷地内にデイサービスがあり、合同研修等が行われ、法人の理念の共有が図られています。デイサービスの理念やグループホームの理念の作成を期待します。	法人の理念とは別にあんじんの理念等の作成の検討を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は新型コロナウイルス感染防止のため交流は持っていないが、これから新たな交流の方法を模索していきたい。	コロナ渦で中々外出が難しい中、地域のスーパーが定期的に駐車場に移動販売車が来てくれて、利用者自身が商品を選んで買い物が出来ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の総会で認知症よろず相談所としての看板の話や認知症サポーターリング等をお伝えしています。地域貢献までは至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族と一緒に利用者の方にも参加してもらい、運営推進会議では、当ホームの現況やスタッフの勤務状況、研修報告をし、事故報告、苦情報告からより良い運営方針や改善点を話し合いしている。	コロナ渦で集まる事が大変の中、昨年4月からは2ヶ月に1度の頻度で開催予定を立て、現状報告、事故報告、苦情報告等から運営方針や改善点を話し合い、運営に反映しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢者福祉課の方に運営推進会議に参加して頂き、事業所の様子を伝え、意見を頂いている。地域密着型サービス連絡会の開催が再開できれば積極的に参加したい。	行政職員の参加を頂き意見交換が出来ています。近所や地域の方は中々も普段から気づいたことや意見を頂いて会議の時に伝え、運営に活かされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の引継ぎ時等、プチミーティングにてケアについて話し、その際にお互いに危険度を考慮しながら拘束になっていないか検討している。	市の運営推進会議や身体拘束検討委員会に職員が参加し、玄関等も日中は施錠されていなく何時でも出入りが可能な状態です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止徹底のため、職員の勉強会、ミーティング、研修会参加等で防止に努めている。		

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングなどの場で職員が成年後見人制度について熟知するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族にも十分な説明を行い、改定時には文章を付けて個々に説明をし、不安や疑問点をたずね、理解と了承を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族にも十分な説明を行い、改定時には文章を付けて個々に説明をし、不安や疑問点をたずね、理解と了承を得ています。	コロナ渦で、中々直接面会や訪問が難しく、インターネットや電話等に対応したりアクリル板越しで距離を取り面談を行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際、職員が意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。利用者の声や思いを具体的に計画できるように担当者を決めながら進めている。	ホーム内の会議や各施設の全体会議等でも職員の意見や提案、利用者の声、思いも計画に組み込まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の就業状況や意向を把握し、改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングを月一回実施し、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は新型コロナウイルス感染防止のため交流は持っていないが、交流会が再開されれば積極的に参加したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	リビングや食堂等、皆さんが集まっている場所へ積極的にお連れし、早く馴染んで頂き、不安を和らげ、安心していただく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、不安なことに耳を傾け、家族に安心して頂けるよう努めていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が希望されている支援を見極め、支援を検討。他のサービスを含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声かけしながら、利用者の残存能力を見極め、できる事は積極的にやっていたり。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただいた時など、お茶の席などに同席して頂き、一緒に楽しんでいただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望すればデイサービス等、今までの馴染みの場所を利用して頂く。	同じ敷地内にあるデイサービスにお友達が来られる日は会う機会を設けたり、近くのお店に行ったり、訪問販売車が来る日を楽しみにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、孤立することのないよう、スタッフが工夫する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近年該当する方がいない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に日常生活に対する意見を伺いながら柔軟に工夫し、対応するよう努めている。	コロナ渦で大変の中でも、本人の希望や家族の意見を調整し出来るだけ柔軟に対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力を得て情報を集め、共有し、馴染みの暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌から個人の記録を共有し、引継ぎ時やミーティングで話し合いをし、理解を深めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために関係者と話し合い、現状に即して介護計画を作成している。	グループホームの責任者が変わったばかりですが、本人、家族必要な関係機関、担当スタッフで意見やアイデアを出し合い現状に則したプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を記入し、職員間で情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援、サービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は新型コロナウイルス感染防止のため交流は持っていないが、交流会が再開されれば積極的に参加したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が系列医院のため、本人は家族とともに納得されている。また、適切な医療を受けられるように他の医療機関とも連携をとっている。	グループホーム前の道路を挟んだ前に主治医が系列の内科医医院で、本人家族も納得しています。また適切な医療を受けられる様に他の医療機関とも連携が取れています。また、別の主治医への診察は原則家族が対応ですがスタッフが対応する事もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に二度看護師訪問があり、系列医院より週に一度看護師が夜勤に来ているため、相談でき、その度に適切な指示をしてもらえ、支援も充実している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供書を地域連携室に届け、電話にて病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療と連携を図りながら、本人や家族の意向を伺い、終末期に関しては家族とともに、本人の心に寄り添えるようにしている。	終末期の見取りの研修は、スタッフ全員が参加され、本人や家族の意向を伺いながら対応できるよう普段から対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、看護師指示のもと指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の対応として、警察、消防署に即時に協力依頼できるようにしている。昼夜を想定した消防訓練を行い、避難の方法を確認している。	昼間、夜間を想定した避難訓練を消防の指導のもと実施されています。備蓄も準備され、定期的に好感されています。特に泊まりを担当する職員は、夜間訓練には特に参加して頂きたい。	

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の書類等については所定の場所に保管し、個人情報の保護を図っている。日常的にも入居者のプライバシーに配慮し、声かけなどに気を配り、相互の信頼関係を大切にしている。	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保には定期的に研修を行い、日常的にプライバシーに配慮した声かけなどが実践されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に説明して希望を伺うようにしている。具体的に分かりやすく話し、本人の表情や行動から気持ちを受け止める事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日は何をしたいかなどの希望を聞き、希望に添えるようにしている。具体的な提案を選んでいただく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者に応じておしゃれの支度を手伝ったり、二ヶ月に一度美容師さんに来てもらい、ヘアカットなどをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と同じテーブルを囲み、明るく楽しい雰囲気づくりに努めている。食べたいものを伺い、盛り付けに工夫し、個別に用意しておく。	介護度が高くなり、調理は難しくなっている方も増え、包丁等を使用しない下ごしらえや、テーブル等のふくことや、出来るだけ出来ることを実践しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	タンパク質を中心に野菜を多めに摂ってもらう。食事時、おやつ時に水分を多めに摂れるよう支援する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夜は歯みがきやうがいの声かけを行っている。夜間は入れ歯を洗浄液につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の行動パターンを把握し、誘導し、自立支援している。	排泄パターンを日ごろから記録し、把握に努め、トイレ誘導を行い自立支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を記録し、把握している。本人の希望によりヤクルト等を飲む方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	脱衣場は暖かくしてあり、入浴は毎日実施している。本人のタイミングを見て声かけし、入浴を楽しんでいただいている。	入浴は毎日実施され、季節(ゆず湯、菖蒲湯等)の入浴を楽しむ工夫が実施されています。拒否される方には、時間をおいて声かけをしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思による行動や言葉、様子より横になったり、ソファでくつろいでいただく。夜間は安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の薬説明書を確認し、内容を把握しておく。薬が変わったときは、効果、副作用について注意する。症状を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍の最中でも天気の良い日は散歩されたり、外でお茶をする。外出しなくとも楽しめるよう季節の行事、誕生会も企画実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の駐車場に移動スーパーが来て、希望者は買い物ができる。コロナ禍で遠足等はできていないが、出かけられるようになれば企画したい。	コロナ禍で外出が大変な中、施設の駐車場に移動スーパーの音楽が鳴ると希望者がスーパーのお兄さんと会話をし、買い物を楽しみながら行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週定期的に購入している飲み物など、支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望でいつでも電話できるようにし、耳の遠い方などは隣にいてサポートしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出時の写真を整理したり、壁に張ったりして、利用者同士楽しんでいる。風呂場は温風ヒーターを使用している。	季節を感じられる様に四季折々模様替え(ひな人形や兜、クリスマスツリー)や季節の花などを飾ってあり、施設の花壇にも花や緑があり、コロナ渦で外出が出足や行事が中止、延期になっており、近所に散歩したり、施設の花壇の花を見たり工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が気軽に話をしたり、生活できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを設置するなど、一人の時間を楽しめるよう支援をしている。使い慣れた品物を置いたり、写真を貼ったりしている。	コロナ渦で中々外出が困難な中、一人ひとりの居室にも家族と相談し思い出の写真、仏壇やテレビが設置され、DVDや音楽等一人の時間を楽しめる様支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋やトイレの場所がわからない方にはさりげなく誘導させていただいたり、歩行の安全を見守る。		